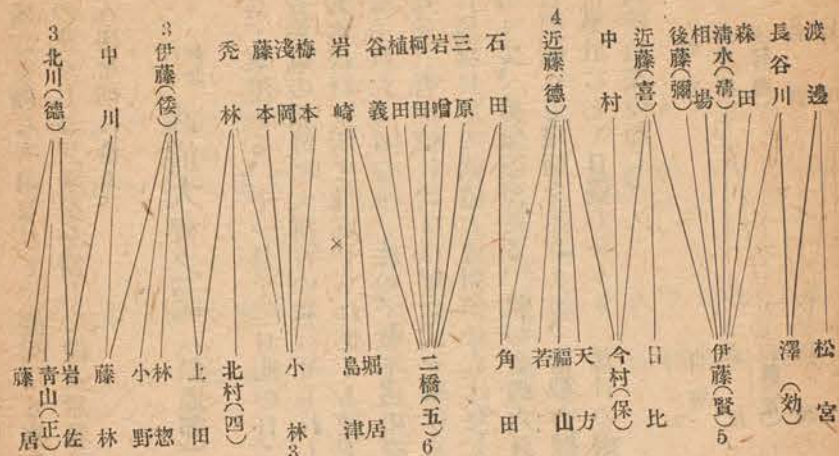
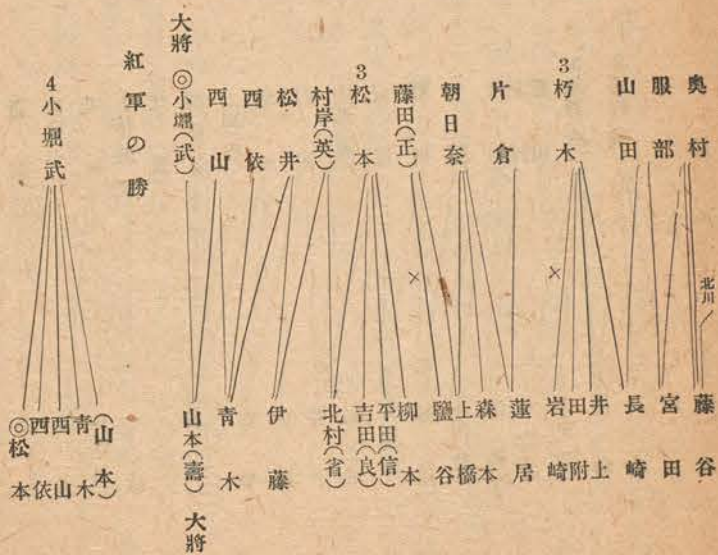




概評

戦は紅軍山本白軍 麻生の先鋒にて激しき火蓋は切られ、始めが程は一勝一敗の有様なりしが



白軍林敵の三騎を打ち止めてより、續く辻、伊藤、二橋の勇士力戦奮闘し敵の首級十有餘を擧げ、紅軍の心膽を寒からしめたりしが、紅軍水野、西村、近藤寄り来る荒武者を薙ぎ倒し、紅軍の恢復に力めたるも、續く者悉く破れ、爾後常に白軍優勢なりしが、白軍の柱石と頼むべき三將、四將の出演せざりしため、戦勢一變し副將青木防戦に盡したれども効を奏せず、山本副將西山を斬つて落し、勇氣百倍して大將小堀と鎬を削りしも、紅小堀の腕や優りけん山本涙を吞んで退き、遂に白軍萬事休す。時に午前十一時二十分なりき。當日の紅白一本拔勝負の勝者左の如し。

賞外

- 壹等賞(六本拔) 二橋 五男(二年)
- 貳等賞(五本拔) 伊藤 賢三(二年)
- 參等賞(四本拔) 小堀 武夫(五年)
- 近藤 徳三(三年)
- 四等(三本半拔) 朽木 惣一郎(四年)
- 五等(三本拔) 松本 武北川 徳伊藤 俊小林 喜水野 政西村 浅辻 善林 英

午後對外試合之部 (三本勝負)

- 1 (彦小) 本校 ○仲谷君 大平太
 - 2 (彦小) 本校 ○廣田君 小川牧
 - 3 (彦小) 本校 ○小川牧 村岸誠
 - 4 (彦小) 本校 ○小林君 村岸誠
 - 5 (彦小) 本校 ○仲谷君 今村
 - 6 (彦小) 本校 ○廣田君 水野政
- 今村や初陣なれどもよく戦ひ、見事得意の「抜胴」にて一本を得、折しも敵の打ち込むをかはして打ち倒し、兩者上になり下になり苦戦せしも、遂に押へ込み首級をかき切る。

吾れ若冠なれども元氣よく戦ひ、得意の「籠手」にてまたたく間に美事敵を討つ。

- 7 (彦工) 本校 ○若林君 渡邊興
- 8 (彦工) 本校 ○木村君 鹿谷
- 9 (彦工) 本校 ○若林君 山
- 10 (彦工) 本校 ○一井君 羽根田
- 11 (彦工) 本校 ○福永君 岩泉

吾が羽根田、岩泉の兩選手長農を一蹴せんと兩將共に秘術を盡し力戦せしも、審判引分を宣して

止む。

12 (揚武) 小林君
本校 ○野瀬光

合戦十數合遂に一本勝負となりたれば、吾勇氣百倍して敵に肉迫し、隙に乘じ見事「面」を得憤死せし村岸の仇を報ず。

13 (彦醫) 吉村君
本校 ○田井中

14 (八商) 松林君
本校 ○筒井

15 (長農) 福永君
本校 ○西村榮

16 (長農) 井君
本校 ○平田

西村、平田共によく戦ひ、攻め来る長農選手を一し、羽根田、岩泉の仇を報ず。

17 (八商) 松林君
本校 ×秋山

敵は先に筒井と戦つて敗れ、元氣消沈したるに反して秋山始めより攻撃に出で敵を壓すること一方ならざりしかば、敵も弱り盡し、兜を脱いで退きしかば、勝負は引分けとなり、秋山日頃の秘術を現す能はずして太刀を納めぬ。

18 (彦醫) 成宮君
本校 ×中村

本日は午後一時東宮殿下彦根驛御通過遊ばされ職員生徒奉送迎のため今日の試合の進行を氣遣ひ

しも、出演者諸君が眞面目に出演せられ、諸先生の御盡力により、豫想以上の進行を見、且盛況裡に今日の大會を終へ、閉會の辭に校長より近年稀に見る活氣あり、禮儀正しき、武道大會なりしと評せられしは、部長初め諸君等と共に我等理事の最も幸とする所なり。希くは前途ある諸君よ、益々斯道に勵まされんことを。(中村記)

野球部

本校對紅忠野球戰記

四月十六日 我が部は本校庭に紅忠を迎へ戦ふ我が軍は一回に四點、三回に三點、四回に二點、六回に二點、八回に二點、計拾三點を入れたるに反し、敵軍は一回に一點、五回に一點、八回に一點、計三點を入れしのみにて振はず。我が軍の大勝に歸す。

當日のメンバー並に成績左の如し。

對岐中

五月十四日 當日午後岐中と大垣校庭にて戦ふ。二時三十分本校先攻、大岩(球)松永(壘)の下に火蓋を切る。第一回に一點、三回に一點、八回に二點計四點を入れしに反し、岐中は三回に二點を入れしのみ。閉戦四時三十分、四對二にて我が軍の勝。

本校		岐中	
光山田中	藤谷島藤	平桂森	篠田伊關中安
三二捕遊右	一中投左	三二捕遊右	一中投左
永中林野	岸村藤岡	水竹林野	岸村藤岡
清竹若牧	辻村西後吉	清竹若牧	辻村西後吉
中投捕二遊三	一右左	中投捕二遊三	一右左
三死安得	打撃數	三死安得	打撃數
振球打點	一四三	振球打點	一四三
四三三	四四四	四三三	四四四

對八商

五月二十日 八商を本校庭に迎ふ。我校先攻、壘審下村、球審寺下。我校七回、九回に各一點を占め、八商は一回に一點、八回に二點を得三對

患		紅		中		彦	
水河川岡田	森木村本	楠芹吉立村	松鈴山櫻	水岡林中	本藤田岸	清吉若竹	辻松後廣村
三一捕中遊左	二右投	三一捕中遊左	二右投	中左捕投遊	一右二三	中左捕投遊	一右二三
三死安得	打撃數	三死安得	打撃數	三死安得	打撃數	三死安得	打撃數
振球打點	一四三	振球打點	一四三	振球打點	一四三	振球打點	一四三
一八一	四三	一八一	四三	一八一	四三	一八一	四三

大垣中學遠征記

五月十四日我が部は大垣中學に遠征す。十時四十分大中先攻にて篠田(球)森田(壘)の下に開始大中一回に四點を入れ、二回に二點、六回に一點計七點を入れたるに反し、我が軍は一回に三點、三回に一點を入れて四回まで振はざりしが、五回に於て牧野の痛快なる中、左間三壘打ありて、一舉四點を入れ終に八對七のスコアを以て我が軍勝つ。閉戦一時十分。

中 岩田藤永藤原根橋野
大村加松伊野曾高勝
一三遊投左二右捕中

中 水岡林中野 岸村藤
清吉若竹牧辻村西後
中左捕投二遊三一右

二にて我軍の負。兩軍のメンバー左の如し。

八 商		本 校	
坂川野見下島田井	三〇	水岡林中野岸村藤	三四安得打
辻上谷中勝木永松松	三〇	清吉若竹牧辻村西後	三四安得打
左中捕遊一二右三投	四〇一三	中左捕投二遊三一右	三四安得打
		二壘打 牧野	振球打點數
			八三三二一

對東山中學

五月二十一日 本校庭に於て、壘審松居、球審下村にて開始。東山先攻。東上得點なく我二回四點、三回一點、四回一點、六回一點計七△對零にて我軍の勝。

東 山		本 校	
浦野島原田川藤井澤	三四安得打	水岡林中野岸村藤	三四安得打
三真小松森北後今北	三四安得打	清吉辻若牧竹村西後	三四安得打
左二遊捕投一三右中	三四安得打	中左遊捕二投三一右	三四安得打
	振球打點數	二壘打 辻一 小島二 北川一	振球打點數
	八三四〇二		四四四七五

對平安中學

六月四日 平安中學に於て戰ふ。平安先攻、平安一回二點、二回四點、五回五點、七回一點、八回二點、九回一點、計十五點。我々は二回二點、五回三點、六回一點、計六點にて十五對七にて我軍の負。

平 安		本 校	
脇田本野 藤泉	三四安得打	岡林中合本村岸藤	三四安得打
千四森川牧堀佐模恵	三四安得打	辻吉若竹川松西村後	三四安得打
一二捕投遊三中右左	三四安得打	右左捕投遊中一三二	三四安得打
	振球打點數	二壘打 竹中一 松本一	振球打點數
	一五二		六三七七七

對岐中

六月二十四日 岐中校庭に戰ふ。壘審淺見、球審速崎。我軍は五回に一點、六回に三點を占め、計四點。敵は五回に一點を得しのみ。兩軍爾後得點なく、我軍の勝に歸す。

岐 中		本 校	
光中崎山田田藤達谷	三四安得打	水岡林中野岸村合	三四安得打
平田熊桂篠森伊安關	三四安得打	清吉若牧竹辻西村河	三四安得打
三中投二遊捕一右左	三四安得打	中左捕投二三一右遊	三四安得打
	振球打點數		振球打點數
	二五		二一五四

對商友俱樂部

六月十八日 本校庭に於て戰ふ。商友先攻にて我々は一回に一點、二回に一點、三回二點、五回三點、六回二點、七回六點、八回二點。敵は一回一點、九回一點にて十七△對二にて我々の大勝に歸す。

商 友		本 校	
村田井本 里田合藤	三四安得打	水岡林中野岸村合	三四安得打
中寺澤瀧奥九横河近	三四安得打	清吉辻若牧竹西村河	三四安得打
遊二三左投中右捕一	三四安得打	中左三二捕投一右遊	三四安得打
	振球打點數	二壘打 牧野、若林、吉岡	振球打點數
	三三		一六四七五

對敦商

七月二日 本校庭に敦商を迎へ戰ふ。敦商先攻にて敵は一回に一點を得しのみ。我々は一回に一點、四回に一點を得しのみにて我軍の勝。

敦 商		本 校	
田辻橋下田田原 治	三四安得打	水岡林中野岸村合	三四安得打
吉三大山原増杉岡銀	三四安得打	清吉若牧竹辻西村河	三四安得打
一三捕二投中左右遊	三四安得打	中左捕二投三一右遊	三四安得打
	振球打點數		振球打點數
	三四		四一一二

對京二中

六月四日 京二中に於て戰ふ。我々先攻にて我々は得點なし。敵は二回二點、四回三點、七回一點、八回一點、計七點にて七△對〇にて我軍の負。

二 中		本 校	
村野内本濱藤本田川	三四安得打	合岡林中野岸村藤	三四安得打
木戸巖山長加立上谷	三四安得打	川吉若松竹辻村西後	三四安得打
左一捕三投二遊右中	三四安得打	遊左捕二投右三一中	三四安得打
	振球打點數	二中 三壘打 長濱二 本校 同 木村一	振球打點數
	三四		九二一〇七

對大阪本町俱樂部

我部は朝日新聞主催京津野球大會を目前に控へ、慶應野坂氏のコーチ後本町俱樂部の挑戦に應じ、七月二十一日下村(正審)松本(副審)二氏審判の下に本校庭に於て開始す。我軍先攻、我部第一回攻撃大いに振ひ、敵の連失を牧野の二壘打と一安打一擧に六點を失取し打撃一順せり。第二回更に二回を加へ、爾後六回迄得點なく、七回一點、八回敵の連失に乘じ八點、九回にて更に五點を加へ、計二十二點を算するに反し、敵軍は第二回無死福山左翼三壘打に出で、竹内の左翼飛球犠打となり一點を算し、爾後毎回本校軍の好守に沮まれ得點するに到らず。我軍二十二對一を以て大勝す。

町		校	
上寺上福美内家木中	井小岸山瀧竹古々田	水岡林野中岸村河合	清吉若牧辻竹村西河
二二遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	中左捕二三投右一遊	安得打打點數
安得打打點數	三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	安得打打點數
三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	安得打打點數
三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	安得打打點數

本町三壘打 福山、二壘打 瀧美、本校三壘打 牧野二壘打牧野二、若林一。

京津大會第一勝者戰記

我が野球部は昨年の京津大會に於て一勝者戰に敗れ、連年不振の状態にありしが、今春以來部員一同陣容を整へて猛練習を重ね、七月十六日試験終了後、直ちに慶應野坂氏をコーチに迎へ、道場に合宿し、午前は輕き自由打撃、午後は炎天焼く如き一時より日没に到るまで、コーチヤーの指導の下に、二十一日まで猛練習をなし、爾後二十六日まで我先輩の叱咤の下に技を磨きしかど、不幸竹中投手肩に肉放れを生じ、投手盤に起つ事能はず牧野をプレートに、竹中を二壘に容め、京津大會に參加し、不戦一勝者となり、二十九日一勝者戰に於て花園の豪敵京都三中と決戰す。

試合經過 (三中先攻)

第一回表 敵軍劈頭我が牧野投手に脆くも三振を喫せられ、北村一壘越安打に出壘し、星野二壘失に生き、北村三盗を企て捕手の惡投に生還し、長濱三振せしも一點を先取す。(裏)我軍清水死球に出で、吉岡の遊匍に詰殺されしも、若林四球に牧

野遊失に満壘となり、辻竹中の投匍失に四點を入

れ、村岸遊匍失に出でしも西村三振に終る。

第二回表 濱田三振し石田二凡飛を上げ、井筒投

匍に止む。(裏)我軍河合亦死球に出で、清水投飛

吉岡遊匍に二死となりしも、投手の二壘牽制惡投

に一擧生還し、若林三振。

第三回表 敵軍竹村西川上羽の三者牧野に弄殺さ

る。(裏)牧野衆望に背かず左翼越の痛快なる本壘

打に欺聲裡に生還し、辻二匍に倒れ、竹中遊匍失

に生きしも、村岸遊飛し、西村も遊失に出でしも

河合の投匍に止む。

第四回表 敵軍三者凡打に終り、我軍清水の三振

後吉岡遊撃を過らせ、若林の左中間二壘打に一擧

本壘をつきしも、野手の好投に惜しくも殺され、

牧野遊匍に出でしも、辻二匍に點を成すに到ら

ず。

第五回表 敵軍一死石田二匍失に生きしも、井筒

竹村共に三振。(裏)竹中三遊間安打左翼の後逸に

二壘に至り、村岸の投匍に三進し西村の犠牲球に

還る。

第六回表 西川二失に上羽四球に一二壘に據りし

が、北村三振し星野左中間二壘打に西川生還し、

上羽本壘に刺され、長濱濱田凡退す。(裏)清水の

死後吉岡遊二間安打に出でしも若林牧野凡打に空

し。

第七回表 敵軍一死後井筒遊失に生きしも、竹村

三振し西川二飛。(裏)辻竹中四球に出で、村岸の

犠打に送られ、西村の犠打に辻生還し、河合死球

に出で、清水の一二間安打に竹中還り、我軍七點

の差を以てコールドゲームとなり、九A對二を以

て大勝す。

中		校	
上羽野濱田田筒竹村西川	一三捕二左投右中遊	水岡林野中岸村河合	清吉若牧辻竹村西河
安得打打點數	三三遊投中右左捕一	安得打打點數	三三遊投中右左捕一
三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一
三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一	三三遊投中右左捕一

三中二壘打星野 本校本壘打牧野 二壘打若林、竹中

同 一勝者戦記

昨日三中进行を破り、三十日午前七時四十五分より

洛北の重鎮京都師範と戦ふ。我軍先攻

第一回表 清水選球四球吉岡遊匍に倒れしも、若林三遊間安打を放ち、牧野左翼越三壘打に清水若林還り、牧野も竹中の犠打に還り、辻四球出で松本の投匍に止みしも我軍三點を先取す。(裏)響庭河部三振し、山口三壘惡投に二壘に到りしも田守の一壘に空し。

第二回表 一死後河合遊撃を過らせしのみ。(裏)敵軍凡打に無爲。

第三回表 一死後牧野遊失に出で、竹中の遊越安打に送られしも辻遊匍松本左翼飛球に了る。(裏)敵軍一死後石野遊失に出でしも響庭の遊匍に詰殺河部遊凡飛球。

第四回表 我軍無爲。(裏)一死後田守四球に出で、淺田の犠打に二進し、三捕暴投に還り次打者凡退。

第五回表 吉岡の死後若林遊撃を襲ひ、牧野四球

軍十一對二にて勝つ。

本校		京師	
水岡林野中	本村合	庭部口守田川川島野	三
清吉若牧竹辻松西河	安得打	響河山田淺吉中中石	三
中左捕投二三右一遊	三四死振球打點擊	左中投捕遊三二一右	八
	一四〇		二二
	五五九		三三

同 二勝者戦記

我軍は三中京師を撃破し三勝者に加はることを得たり。而して残るは只立命二中一商と本校の四校のみ抽籤の結果京都一商と對戦す。本校先攻にて午前十時より試合開始。

第一回(表)清水先づ一匍に死後松本左翼に安打を飛ばせしも若林三匍牧野左飛に空し。(裏)田中劈頭右前安打に出で伊丹の犠打に送られしも、八田遊匍荒田二匍に入らず。

第二回(表)竹中の三匍死後辻右安打し、野手の後逸に三壘打となりしも、吉岡投匍西村の三匍凡打に入らず。(裏)岩竹中堅安打に出で、池垣の犠打

し、竹中の三遊間安打と辻の二遊間安打と松本三振せしかど三點を得、西村三遊間安打に出でし時辻インタフエアして止む。(裏)二死後河部遊失に生き、山口の三匍に封殺。

第六回表 河合中前安打に出で、清水の三振後吉岡若林各々遊失に生き、牧野の左翼大飛球犠牲打となり、河合吉岡還り、竹中の中堅安打に若林還り辻遊直に止む。(裏)敵軍無爲。

第七回表 松本三匍失に生き、西村の遊失に二三壘に據り、河合の遊撃連失に生還、清水の三安打に西村河合還り、吉岡四球に出でしも、後援空し。

(裏)中川中堅安打に出でしも二盜ならず、中島三振し石野二匍に無爲。

第八回表 竹中辻の遊匍死後松本三壘を過らし、直ちに二盜し四球に出で、松本又もや三盜せしかど河合投匍。(裏)響庭河部の三振後山口四球に出でしも、田守中飛。

第九回表 我軍無爲。(裏)敵軍最後の攻撃なり。淺田遊失に出で吉川の左翼三壘打に生還し、中川中飛中島二匍石野三匍の一點を加へたるのみ。我

に二進し、山田四球に出で一壘に據りしも、濱村三振し曾木の中堅飛球に無爲。

第三回(表)河合三振し清水松本凡打に止む。(裏)敵軍凡退。

第四回(表)若林中飛牧野遊直竹中左飛して空し。(裏)荒田の二匍後岩竹左安打に出でしも、池垣山田二匍して入らず。

第五回(表)辻遊撃を過らせ出でしも吉岡の投匍に結殺され、西村の三飛後河合二匍失に清水四球に出でしも松本中堅飛球に點を成すに到らず。(裏)濱村遊匍曾木三振し田中右飛に零對零にて兩軍得點なし。

第六回(表)若林遊失に出で牧野の左翼安打に送られ竹中の犠打に三者成功する時、辻左翼痛打し若林牧野を入れ、吉岡の二匍野手の失する間に竹中生還して三點を數へ、次打者凡退に終る。(裏)伊丹投匍八田投飛失に危く生き、荒田三振し岩竹三飛して止む。

第七回(表)河合中飛清水捕前匍球松本遊匍に死す。(裏)敵軍山田二匍濱村三匍し曾木三振して無

第八回(表)若林の三飛後牧野中堅安打に出でしも
中飛辻二飛に入らず。(裏)敵軍二死後伊丹四
球に出でしも八田右飛して空し。

現に出して、入石を、
第九回(表)兩軍最後の攻撃に變りしも効なく、兩軍無爲に終る。斯くして我軍は諸君の御熱誠ある御聲援に據り昨年の京津の覇者を粉碎する事を得たり。

本 校	一 商
中 右 捕 投 二 三 左 一 遊	中 伊 丹 田 田 田 竹 垣 山 田 溪 村 曾 木 捕 二 一 中 遊 右 左 三 投
水 本 林 野 中 辻 岡 村 合 清 松 若 牧 竹 辻 吉 西 河	安 得 打 三 四 安 得 打 死 擊 擊 死 振 球 打 點 數 振 球 打 點 數
三 二 三 五 三	三 四 三 三 〇 〇

我軍は幸にも京都三中、京都師範及び京都一商の洛陽の諸雄を薙ぎ倒し。最後に同志社及び優勝候補と目せられし京二中を撃破せし立命館中學と

後米田の投匁に三壘に及び、安田二遊間安打に生還、家倉四球長谷川の三越安打に安田本壘を襲ひ岡島三振に止む。(裏)河合右前安打に出で、竹中の軟打に兩者成功し、松本の犠打に二者進壘し、若林の投匁に河合投手に謀られ、三本間に挾殺されしも、牧野の三遊間安打に竹中若林生還し、清水の投匁に止みしも、二點を恢復し、意氣大いに昂る。

第四回(表)佐原三振後大橋遊働失に生き、木村の二遊間安打と野手後逸に一舉本壘を強襲し、佐野の三邪飛後米田の三越安打に木村生還、安田投匍に止みしも更に二點を加ふ。(裏)我軍辻一邪飛に倒れ、吉岡二遊間に出で、西村三振後二盜せしも河合三振して無爲。

第五回(表)家倉三匍失に出で、長谷川の轢打に進み、岡島の三匍暴投に生還、岡島又捕逸に三進し佐原の轢打に還り、大橋三匍に止みしかど敵軍十點を算す。(裏)竹中左前安打に出で、松本の投匍二惡投に二者生き、若林の投直失に無死満塁の好機は到來せり。牧野輕くバントを行ひ、竹中還り

雌雄を決せんとす。我軍名譽の月桂冠を贏ち得るか、立命館覇者となり鳴尾原頭に起つか。此の二雄の合戦は八月一日午後一時半京都第三高等學校庭に於て球審堀壘審石田日野三氏の下に立命館中學先攻果て戦の幕は切つて落された。

第一回(表) 立命劈頭佐原選球四球を利し、大橋の投匍惡二投に兩者生き、本村のバント内野安打となり、無死満塁の危機は我軍を襲ふ。我軍危機を脱せんと努めしかど、捕逸と佐野のバントに佐原大橋還り、米田投匍に退きしも早くも二點先取せらる。(裏) 竹中右中間に打ち上げしも佐野に名を成さしめ、松本遊匍に若林左飛して空し。

第二回(表) 安田三壘横を抜く安打を放ち直ちに二盗し、家倉の内野安打に三進し、長谷川三振せしも岡島の投匍に還り、家倉捕逸に生還して更に二點を加ふ。(裏) 牧野遊匍失に一壘に生き、清水の三振後辻の遊匍失に二者進壘せしも吉岡捕邪飛西村遊匍して點を成さず。

第三回(表)木村遊失と捕逸に二進し、佐野の三振

しも松本清水スクキーズブルーに失敗し、松本本壘に憤死し、清水右飛して僅かに一點を加へしのみ。

(我軍投手牧野二壘に退き、竹中投手に入る)

第六回(表)木村死球を喫し、佐野の内野安打に無死一二塁に據りしも、米田遊直安田三振家倉遊匄し我軍危機を脱す。(裏)辻吉岡二匄に退き西村投飛して無爲。

第七回(表)長谷川三振し、岡島投匍し、佐原左翼に直球を放ちしも吉岡の沮む所となる。(裏)河合三振し、竹中三匍に凡退し、松本三振して無爲。

第八回(表)立命二死後、佐野遊匍失に出でしも、米田の遊匍に詰殺され物にならず。(裏)一死後牧野一二間安打を放ち、清水の犠打に二進せしも辻二匍して入らず。

第九回(表)敵軍安田遊備して刺され、家倉三備し長谷川脆く三振して止む。(裏)最後の攻撃なり。然るに吉岡一備西村三振して早くも二死を數へ、河合も敢なく三振に封せられ、我軍全力を盡して奮戦せしかど利あらず。十對三の記録を以て敗戦

す。諸君の御期待に背きしは残念至極なり。終りに酷暑の折柄遠路をいとはず熱誠なる應援をせられたる校友諸君に對し部員一同感謝して止まず。

立	命	打撃數			
		安打	四死	三死	失策
遊右	原橋村野田倉川島	4	3	1	0
中投	佐大木佐米安谷岡	3	4	6	9
捕	三左二	1	3	6	0
本	校	打撃數			
		安打	四死	三死	失策
中松林野水岡村合	竹本若牧清辻吉西河	4	3	1	0
右捕	二投	3	4	6	9
中三左一遊	二右捕	1	3	6	0
二遊	安田	1	3	6	0

對葵俱樂部戰記

九月十一日 京都葵俱樂部を迎へ戦ふ。葵先攻にて球審前川壘審下村の下に二時十分開戦。敵軍第七回まで入らず。八回に二點、九回に二點を入れしに反し、本校は第一回に二點、第二回に三點、第五回牧野の三壘打ありしも入らず。第七回二點八回に一點、計八點を得、終に八A對四を以て我

岐阜滋賀二縣聯合野球大會之記

我部は今夏京津野球大會に一敗地に塗れ、未だ涙の乾きもやらざる中、年中行事たる野球大會は到來せり。我部は大會開始されてより未だ金色燦たる優勝旗を掌握する事無く、又滋賀岐阜の選手權を獲得することなく過す事此處に五星霜、本年は必勝を期し第六回大會に出演す。十月十五日敵は怨重なる八幡商業と決し我等部員一同血湧き肉躍る。一は昨年一昨年の選手權の保持者一は金龜城下の健男兒の遭遇戦なり。猛氣と精悍の相搏つ所白熱火を吐かざれば熄まず。兩軍の闘士凄氣を含みて起ちフアンは是の快戦を見逃すべからずと定刻前より球場に殺到し、無慮二萬と註せられ聲を呑みて刻々に高調し來る場内の雰氣に魅せらる五百の本校應援團三壘側に、三百の八商應援團一壘側に各々陣を占め、緊張裡に大會劈頭の本校對八商の球戦の幕は切つて落された。之より先き參加チームの入場式行はれ、雪白のユニホーム姿凛々しく續々參集し、振鈴一度び沈靜なる場の大氣

が勝利に歸す。閉戦四時半。

本	校	打撃數			
		安打	四死	三死	失策
捕	重賀坂中西村田本西河	1	3	6	0
左	一遊	3	4	6	9
中	三投	1	3	6	0
右	二遊	1	3	6	0
一遊	河合、中西一	1	3	6	0
二遊	三遊	1	3	6	0
三遊	三遊	1	3	6	0
四遊	三遊	1	3	6	0
五遊	三遊	1	3	6	0
六遊	三遊	1	3	6	0
七遊	三遊	1	3	6	0
八遊	三遊	1	3	6	0
九遊	三遊	1	3	6	0
十遊	三遊	1	3	6	0

對八幡商業戰記

九月二十五日 仇敵八商を迎へ、本校先攻にて審判前川の下に開始。第五回まで兩軍入らず、第六回に至り本校三點を先取せしに對し、敵軍はた一點を得たのみ。三對一にて閉戦す。時に五時。

本	校	打撃數			
		安打	四死	三死	失策
捕	林岡野水村合	1	3	6	0
左	三遊	1	3	6	0
中	二遊	1	3	6	0
右	一遊	1	3	6	0
一遊	河合	1	3	6	0
二遊	三遊	1	3	6	0
三遊	三遊	1	3	6	0
四遊	三遊	1	3	6	0
五遊	三遊	1	3	6	0
六遊	三遊	1	3	6	0
七遊	三遊	1	3	6	0
八遊	三遊	1	3	6	0
九遊	三遊	1	3	6	0
十遊	三遊	1	3	6	0

を振蕩せば、觀集者の凝視を集むる所一齊の拍手となり、紅紫燦たる一旒の優勝旗を捧持せる前年度優勝校たる。八幡商業選手入場、續いて本校膳所中學岐阜中學の四十の戦士は歩武肅々と華やかに且嚴かに壘を廻り、所定の位置に就き、優勝旗返還式を行ひ、大日方會長の訓示を受け、式を終り愈々第一回戦たる本校八商の試合は平塚郡長の試球式にて火蓋は切られた。時に午前十一時を過ぐる十五分。

試合經過

八幡商業先攻、審判山根氏高瀬氏。

第一回(表)八商第一打者辻ワンツウの後、三遊間を抜きて出でしも、勝見の三脩で封殺され、木下の一脩に勝見二進せしも長谷川三振に止む。(裏)本校劈頭若林第二球目を左翼に飛球を打ちしも、辻の好捕に退き、吉岡四球を利し、牧野の中前安打に進み、竹中の左中間安打に無死満塁となり、清水の遊脩に吉岡本壘に詰殺されしも、辻の中飛凡失に牧野竹中生還、清水三進し、松本四球に走者二三壘に據りしも、西村の三邪飛に止む。(八商

校一三

第四回(表) 上坂三振後永島三遊間安打に出で、松田の三脛に二者生きしも富田三振し、松井遊飛に了る。(裏)吉岡先づ得意の四球に出で、牧野の投脛に二者生き、竹中の投脛に牧野二壘に封殺されしも、吉岡三進し、清水の内野安打に吉岡還り、辻の、三壘上を掠むる痛烈なる二壘打に竹中生還。走者二三壘に在る時、松本遊撃を過らせ清水を還

て軍凡退す。(兩軍——○)

第七回(表) 勝見遊匍に死し、木下二匍に退きし後長谷川左前安打に出で、二盜を企てしも若林の好投に刺さる。(裏) 清水中飛し辻三振後松本二遊間安打に出で、西村中前安打に進みしも河合の三匍

第八回(表)上坂三邪飛に倒れ、永島遊匍に退き、松田遊撃を過らせしも富田三振し止む。(裏)若林の遊匍死後吉岡二匍失に出でしも牧野の三匍に封殺され、竹中中堅安打に二者生きしも牧野三盗成らず。(兩軍一〇)

第九回(表) 松井二匁後辻遊匁暴投に二進し、勝見の三匁に辻二三壘間に狭殺され、木下一邪飛に萬休し、我軍十四人對零を以て昨年の仇を報ずる事を得たり。

二疊打 辻一	校 本	八 商
捕左二投中三右一遊	林岡野中水松本村合 若吉牧竹清辻松西河	辻勝見下川坂島田松井 左一遊捕長上永松富松
三四安得打 死 擊 振球打點數	三四安得打 死 擊 振球打點數	三四安得打 死 擊 振球打點數
一一四 四四六四五	一一四 四四六四五	三 一四〇八

戰機刻々熟して十七日は二縣下球界の覇を争ふ

第二回(表)辻二飛松本三飛後西村四球に出でしも河合捕邪飛に空し。(裏)面條の三振後宇野四球に出壘せしも四田三振し吉川投匍して無爲。(兩軍一〇)

第三回(表)若林第二球を左翼に二壘打し、直ちに三盗し、吉岡四球に出で、牧野の中堅安打に我軍最初の一點を入れ、竹中の捕後清水の右飛に吉岡本壘に殺到して刺さる。(裏)世森の投匍後馬場四球望月中堅飛球辻橋の一個失に走者二三壘に據りしも、北村捕邪飛に空し。(本校一 膳中一〇)

第四回(表)辻の投匍後松本中堅安打後逸に二進し捕逸し捕逸に三進せしかど西村との打而走失敗に終り、惜しく本壘上に松本倒れ、西村左翼安打に出で河合四球に若林中堅安打に二死満壘となりしも吉岡捕邪飛に入らず。(裏)面條二飛に退きしも宇野二遊間安打と西田の左前安打ありしも吉川投匍世森投匍に後援なし。(兩軍一〇)

第五回(表)牧野遊匍一失に生き、竹中の犠打に送られしも清水遊直辻遊匍に倒る。(裏)馬場脆く三振し、望月三匍に退き、辻橋投匍に無爲。(兩軍一〇)

(裏)辻橋投飛北村中飛面條捕飛にて各凡退す。(本校一三 膳所一〇)

第九回(表)若林中堅安打に生き、吉岡の犠打に送られ、牧野は遊撃を強襲して過らせ、竹中の左安打に満壘となり、清水の三匍に若林還り、牧野の三壘に至る時一壘手三壘に暴投して牧野生還。辻投飛に止む。(裏)敵軍最後の攻撃も効を奏せず、宇野遊匍に退き、西田投匍に倒れ、吉川遊失に出しも、世森三飛して止む。かくして我校は十二對零にて優勝する事を得たり。

試合は最初より極度に緊張し、一弛一張血戦又血戦、勝敗全く斷すべからざりしも、昊天の微笑は遂に我に幸し、第六回敵の混亂に乗じ、亂打して一舉六點を獲得して大勢を決し、決戦九合死戦の後十二對〇の記録を以て優勝する事を得たり十五、十七の兩日に渡り諸君の熱誠ある御聲援により年來の怨敵八商を破り膳所中學を葬り得たる事を深謝す。

第六回(表)松本四球を利し西村の捕邪飛に死後河合の二越安打に送られ、若林遊失に一死満壘の好機到來し、吉岡軽くバントして松本を還し、自分も一壘に生き、續く牧野の三壘を掠むる三壘打に河合若林吉岡勇躍生還し、竹中のバントに牧野還り、清水の三匍一失に竹中二進し、辻四球に再び満壘となり、松本のバントに竹中還り、西村三振し、河合遊匍に止みしも我軍六點を加へ、意氣大いに昇る。(裏)北村四球を利し面條の左中間安打に進みしが、宇野の三匍に封殺され、西田三振に葬られ、吉川四球に出でしも面條投手に謀られ三本間に挾殺さる。(本校一六 膳所一〇)

第七回(表)若林吉岡共に遊匍に退き、牧野中飛に止む。(裏)世森投匍馬場三振し望月三匍して空し。(兩軍一〇)

第八回(表)竹中中堅安打に出で、清水の中安打に送られ、辻の三匍失に竹中還り、松本遊匍に清水入壘し、西村の三匍に辻生還し、河合三匍に止む。

膳 中		本 校	
森場月橋村條野田川	遊左投右捕一中二三	林岡野中水	若吉牧竹清水
世馬望辻北面宇西吉		本村合	松西河
三二	安得打	四安得打	三死打
三二	振球打點數	四死打點數	振球打點數
六五四〇	一一四六	二五三二	

東海野球大會之記

我部は岐阜中學の招待に應じ、十月三十一日午前七時十三分の列車にて岐阜に向ひ、岐阜中學と第二回戦に戦ひ六對二にて勝利を得、十一月十二日岐阜師範と優勝戦に戦ひ、四對〇にて優勝し優勝盃を得たり。

對岐阜中學

本校の先攻に開始。本校第一回に一點、三回に一點、四回に三點、八回に一點、計六點を得しに反し、岐中は八回二點を得しのみ。

中	岐	校	本
光山田崎田藤中井谷	平葛森熊篠伊田村關	水林 野中本岡藤合	清若辻牧竹松吉後河
三二捕投遊一右左中	三四安得打	三四安得打	三四安得打
振球打點數	振球打點數	振球打點數	振球打點數
三三	三三	三三	三三
四四	四四	四四	四四
二二	二二	二二	二二
一四	一四	一四	一四
四二〇六	四二〇六	四二〇六	四二〇六

對岐阜師範

十一月十二日 岐中運動場に於て岐師と戦ふ。

本校先攻にて十一時二十分開始。

第一回(表)松本左前安打に出で、吉岡の投備に封殺され、若林三振し、牧野投備に止む。(裏)三者凡打。

第二回(表)竹中中前安打に出でしも清水三振、辻投備西村三振、河合一個に止む。(裏)安藤三振、曾我部中飛、大谷中右間安打に出でしも吉田の三振に止む。

第三回(表)松本三振、吉岡四球に出でしも若林の三個に吉岡封殺され、若林二盗に刺さる。(裏)佐々木二個、村瀬三飛、武藤三振に止む。

曾我部の四球に二進せしも、大谷の三振に無爲。第九回(表)松本死球に出で吉岡の左中間安打に送られしも、續く若林牧野竹中の凡打に點を成すに到らず。(裏)敵軍最後の攻撃にうつり、吉田遊撃を過らせ、佐々木の投備に二壘に送られしも、村瀬三振武藤投備に借しくも敗る。かくして我軍は四對零にて優勝し、岐中野村校長より優勝カップを授與せらる。

師	岐	校	本
藤田永藤部谷田木瀬	武吉松安曾大吉佐村	本岡林野中水村合	松吉若牧竹清辻西河
三四安得打	三四安得打	三四安得打	三四安得打
振球打點數	振球打點數	振球打點數	振球打點數
三三	三三	三三	三三
四四	四四	四四	四四
二二	二二	二二	二二
一四	一四	一四	一四
四二〇六	四二〇六	四二〇六	四二〇六

二壘打若林

大正十一年度野球部成績

- 一、對京都紅忠商店
- 二、對八幡商業
- 三、對大垣中學

十三A對三(九回ゲーム)勝
雨天の爲め中止 無勝負
八A對六(九回ゲーム)勝

本會記事

第四回(表)牧野二個、竹中遊撃安打に出で、清水の投備失に二進せしも辻三振西村遊備に止む。

(裏)吉田中前安打に出で、松永の凡打に二進し安藤の三個失に吉田二三間に挾殺さる。曾我部一飛。

第五回(表)河合投備松本三個壘失に出で、二盗せしも吉岡三振、若林遊備に止む。(裏)大谷三振吉田二個佐々木投備に無爲。

第六回(表)牧野四球を得、竹中の三個に二進、投手暴投に二者進壘、續く清水の巧みなる犠打に牧野生還し、又もや辻の中左間安打に竹中生還、西村の三個に辻封殺、河合投備に止む。(裏)村瀬四球を得、武藤の遊備失に二進、吉田三振、松永の投備に二者進壘せしも安藤の投備に無爲。

第七回(表)松本三振後吉岡四球を得、若林の中堅越二壘打に吉岡三進、牧野中飛竹中の遊備一壘失に吉岡生還、若林巧みに本壘を襲ふ。清水右飛に止む。

第八回(表)辻西村河合脆くもPゴロに封せられ、(裏)吉田遊二間安打に進み、松永右飛安部三振に止む。

四、對岐阜中學	四對二 (九回ゲーム)勝
五、對八幡商業	三對二 (九回ゲーム)負
六、對東山中學	七A對零 (九回ゲーム)勝
七、對平安中學	十五對七 (九回ゲーム)負
八、對京都二中	七A對零 (九回ゲーム)負
九、對京都商友俱樂部	十七A對二(九回ゲーム)勝
十、對教員商業	二A對一 (九回ゲーム)勝
十一、對岐阜中學	四對一 (七回ゲーム)勝
十二、對大阪本町俱樂部	二十二對一(九回ゲーム)勝
十三、對京都三中(京津大會)	九A對二 (七回ゲーム)勝
十四、對京都師範(同)	十一對二 (九回ゲーム)勝
十五、對京都一商(同)	三對零 (九回ゲーム)勝
十六、對立命館中學(同優勝戰)	十A對三 (九回ゲーム)負
十七、對京都獎俱樂部	八對四 (九回ゲーム)勝
十八、對八幡商業	三對一 (九回ゲーム)勝
十九、對八幡商業(岐滋大會)	十四對零 (九回ゲーム)勝
二十、對膳所中學(同優勝戰)	十二對零 (九回ゲーム)勝
二十一、對岐阜中學(東海大會)	六對二 (九回ゲーム)勝
二十二、對岐阜師範(同優勝戰)	四對零 (九回ゲーム)勝

(S F 生)

米 米 米 米

庭球部

富田記

五月十四日我が部は京都師範及び京都二中に挑戦して午前六時八分發列車にて敵地に向つて駒を進めぬ、本年度最初の遠征の事とて選手の意氣すさまじく、まづ京都師範と戦ひしも其の最中降雨沛然として來り、遂にドロンゲームとなり、京二中とは戦はずして歸れり。

名古屋新聞 全國中等學校庭球大會參加の記

五月廿一日 我が部は河村、吉居組をして鶴舞公園コートに於ける大會に出征せしめぬ。孤軍戰場に向ひし兩人よく戦ひよく守りたりしも、不幸一回戦に於て豊橋中學の爲に惜しくも敗れたり。乞ふ校友諸君の御寛恕を、

◇第二回京都遠征の記

さきに第一回京都遠征を試みしも降雨の爲遂に勝敗を決する能はざりしかば、五月二十八日再び

右の如き成績を以て目出度く凱旋せり。感謝す諸君の熱誠なる御後援を。

◇本校主催縣下中等學校庭球大會の記

時は六月四日、本校々庭に於て縣下中等學校庭球大會を開催せり。午前八時安河内校長の開會の辭ありていよ／＼戰の幕は切つて落されたり。戰蹟次の如し。

第一回戰

第一コート

- 1 膳中(山本三〇彦工(岡崎 6 師範(馬淵〇三膳中(中村
- 2 膳中(津田三〇彦工(吉川 7 膳中(木下三本校(伊藤
- 3 膳中(佐藤〇三比中(大塚 8 膳中(野村一三長農(北村
- 4 膳中(堀江〇三長農(松井 9 膳中(前田一三本校(吉居
- 5 膳中(若林〇三八商(大隅 膳中(若林〇三八商(吉居
- 6 膳中(橋本三〇一八商(中村 膳中(橋本三〇一八商(中村

第二コート

- 1 膳中(赤田〇三比中(關 3 膳中(竹内三二八商(若林
- 2 膳中(水谷〇三比中(雲井 4 膳中(安見三二八商(山田
- 3 膳中(山田三〇一師範(森岡 膳中(山田三〇一師範(森岡
- 4 膳中(山田三〇一師範(森岡 膳中(山田三〇一師範(森岡)

本會記事

京都二中及び平安中學と戰ふ爲出征せんとする前夜、京二中より試合中止の電報來りしかば、京都師範へ挑戦し、快諾を得出發せり。此の日よく戦ひて平安を屠り、其の勢を以て斯界に其の優を誇れる京都師範を全滅せしめぬ。

本校 平安

本校 平安



◇對京都師範

本校 京師



本校 京師



第二回戰

第一コートに於て

- 1 膳中(大塚〇三長農(松井 5 膳中(下野三〇師範(橋本
- 2 膳中(間庭〇三長農(松井 6 膳中(細井三〇彦工(北村
- 3 膳中(津田三〇一本校(三浦 7 膳中(杉野三〇師範(古澤
- 4 膳中(山本三〇一本校(三浦 膳中(山本三〇一本校(三浦)

第二コートに於て

- 1 膳中(小島〇三本校(河村 3 膳中(北川一三本校(伊藤
- 2 膳中(細井〇三本校(河村 4 膳中(倉永三二八商(伊藤
- 3 膳中(細井〇三本校(河村 5 膳中(倉永三二八商(伊藤)

第三回戰

第一コートに於て

- 1 膳中(小島〇三本校(河村 2 膳中(倉永三二八商(伊藤
- 2 膳中(細井〇三本校(河村 3 膳中(倉永三二八商(伊藤)

第二コートに於て

- 1 膳中(松井一三膳中(中村 3 膳中(伊藤組不戰勝
- 2 膳中(梅山三〇膳中(山本 膳中(梅山三〇膳中(山本)

第四回戰

第一コートに於いて

1 比中(梅山)一三本校(河村) 3 勝中(中村組)不戰勝

2 八商(杉野)三二本校(伊藤) 西川

第五回戰

第一コートに於いて

1 勝中(中村)三一本校(河村) 2 八商(杉野組)不戰勝

最優勝戰

八商(杉野)一三勝中(中村)

右の如き成績を以て遂に縣下の霸王たるを得ず空しく諸君の期待に反きたるを如何にせむ。噫！無念！！

◇對敦賀商業學校戰の記

六月十八日敦賀商業の挑戰に應じ、彦根高等女學校コートに於て戰ふ。我が軍よく戦ひたりしも風のはげしきと且小試験の終りたる翌日の事とて其の疲勞甚しきにより、遂に其の技を發揮するを得ず、不幸敵をして勝者の榮を握らしめたり。無念いふばかりにあらず。謝す諸君の應援を。

◇第四高等全國中等學校庭球大會參加之記

夏季練習にて鍛へに鍛へし鐵腕もて北陸の猛者連を一蹴せんものと七月一日金澤の地指して出發せり。戰士の奮闘目覺しく屢々敵を壓迫せしも、戰遂に利あらず敵手七尾中學に勝をゆづりぬ。思へば無念！されどベストを盡して破れし事なれば選手は各々大なる賜を得て歸れり。

◇大阪毎日新全國中等學校庭球大會參加之記

七月廿六日我が部は同月廿七日より濱寺公園コートに於いて開催されし大毎社主催の檜舞臺へ河村組をして出征せしめぬ、戰績。
七月廿七日 第一回戰 對八尾中學三一二勝
同月廿九日 第二回戰 對京都美工學校三一三負

我よく戦ひ屢々敵の心膽を寒からしめしも、戰時に利あらず、惜しくも敵手京都美工學校へ勝をゆづれり。感謝す諸君の御後援を。

◇滋賀師範縣下中等學校庭球大會參加之記

時はれ大正十一年九月廿三日、好球兒の血を湧

かすべき庭球縣下大會は、滋賀師範學校コートに於て開催されたり。一學期の大會に於ける敗戰の汚名を雪がすんば、死すとも歸へらじと心に誓ひたる我が部十名の選手は、彦根驛頭歡呼の聲に送られ、數多の校友諸君に擁せられつゝ戰場として出發せり、次に其の日の戰績を記さん。

第一回戰

本校(河村)二三勝中(安見)

本校(高橋)二二三比中(大塚)

本校(山田)二三師範(森岡)

本校(伊藤)三一八商(中村)

本校(堀江)不戰勝

第二回戰

本校(伊藤)三一〇勝中(山本)

本校(堀江)三一八商(植西)

第三回戰

本校(伊藤)三一比中(梅山)

本校(堀江)三一〇彦工(若林)

第四回戰

本校(伊藤)不戰勝

本校(堀江)三一〇師(森岡)

最優勝戰

本校(伊藤)三一勝中(安見)

本校(堀江)

噫！我勝てり、我勝てり！臥薪嘗膽せし甲斐ありて遂に名譽の榮冠は我が頭上を飾れり。我よく戦ひたりと雖も若しも校友諸君のあの熱誠なる御應援なくんばいかで今日の榮譽を擔ふを得べき。謹んで應援を深く深く感謝す。

◇祝勝大會之記

校友諸君の熱誠なる御後援によりて目出度く縣下の覇者たるの名譽を獲得せし、我が部は永久に其の譽を記念せん爲十月八日を卜して、本校々庭に於て盛大なる祝勝大會を開催せり。絶好の運動シーズンに男々しく活躍して幸運にも優勝せし諸君の名を記して共に、譽高き喜びの日を祝せん

優勝者

五年級 四年級 三年級 二年級 一年級
(小竹) (渡邊) (澤村) (川崎) (橋本)
(森原) (園城) (西村) (大野) (堀川)

◇神戸高等全國中等學校庭球大會參加之記

十月一日我部は神戸高等商業學校の大會に伊藤組をもて出陣せしめぬ。

戰績

一回戰 對北野中學三一三勝 二回戰 對天王寺商業三一三負

天は遂に我れにくみせず、奮戦力闘も其効なく
天王寺商業に勝をゆづれり。感謝す諸君の御後援
を。

◇愛知齒科全國中等學校庭球大會參加の記

十月十五日 河村組は愛知齒科の大會に必勝を期し
て參加しよく奮戦せしも、武運拙く第一回戦に於
て名古屋商業の爲に憤死せり。謝す校友諸兄の應
援を。

◇大正十一年の我部を顧みて

顧みれば春尙は淺き四月よりはじめて暑熱焼く
が如き三伏の候も秋も終らんとして伊吹の頂上に
雪の降りかゝりし十月の末まで我が名譽ある學校
の名を上げ我部の譽を四海にしかんものと暑さも
寒さも厭はず懸命に努力せし効も少なく、戦ふ毎
に幾度か諸兄の期待に反けり。何卒選手一同の胸
中をお察し下さつて御寛恕あらん事を乞ふ。され
ば秋季縣下大會に於ては諸君の御後援により、幸
ひにも名譽の榮冠を獲得する事を得たるを選手一
同改めて深く感謝する所なり。

端艇部

京都帝國大學水上大會
參加之記

五月八日 我等七勇士は校友會應援團諸君の熱
誠なる聲援を得て是が非でも勝たざれば歸らじと
盟ひて陰る鐵腕撫して午前七時四十二分彦根驛を
軌り出づる列車の人となりて西、石山の戦地へと
向ひぬ。

河のレースコースには經驗乏しき方なれば、窓
外の時々刻々變する景色には視線も呉れず、一意
専心作戦計畫に餘念なき内に、列車は瀬田川の鐵
橋の上を馳りつゝあるに驚きて我れに歸り、直ち
に石山に着きにけり。

驛前より見物人で滿員の電車にて愈々戦地に赴
けり。役員に出席の旨を報じ、その足にて直ちに航
路視察に行き、種々作戦計畫をなす内に回は進み
て早や我等の戦ふべき時刻は近づきぬ。今更に勇
氣勃々として湧き、敵をして一敗地に塗れしめざ
らで置かんやと、直ちに會場に赴き抽籤せしが如

何に神の戲とはいへ、端艇は方丈航路は最も悪し
き第三航路とは無情也。方丈は一昨年石場濱で我
が先輩が優勝戦に於て脆くも米子に敗られし時の
端艇にして、其他此の端艇にて勝ちし者は未だ嘗
て有りし事は聞かざるなり。然れども我が選手は
さる事位に越起遂巡するが如き弱輩には非ず。金
を貫き石を透すの精神山を抜き世を蓋ふの意氣を
持ち、功を神と争はむとし敵は如何に有利なりと
も、何のその、此の方丈にを勝つて呉れんと却つ
て勇氣百倍。

艇で乗艇す。用意終りて三艇(八商、長農、彦中)
ランチに曳かれて嚙喰たる奏樂裡に白波を曳いて
陸上より聲援を浴せかけられ乍らスタートに向ふ
四五分にしてスタートに着く。艇で戦機熟せり。
充分の自信を持つて今や遅しと待つ銃聲一發相並
びし三艇は白波を起て、スタートを切りぬ。

長濱農學 1 コース 一着
八幡商業 2 コース 二着
彦根中學 3 コース 三着

スタートは我輩聲と共に彼等よりも早く切り出
で始め、百米程は悠々迫らず落ちつき拂つて漕ぎ

しに彼等も去るもの我れより抜きんすること一艇
身斯くてはならじと振ひ立ち、燃ゆる血潮にて彼
等に切迫せんと努むる内に、長農は何とや思ひけ
ん、力漕に力漕を重ねて我れと八商を後にして長
驅せんせり。彼の如き者に負けては面目無しと
半死半生の態で、惡戦奮闘せしも、遂に及ばずし
て破れたり。實に悲惨の極みなり。最善を盡くし
て破れしは全く運命の然らしむ處とは云ふもの、
實に残念なり。涙を拂つて午後五時半石山驛發の
列車にて歸校せり。

終りに臨み先輩諸君及應援團諸君の我等選手の
胸中を察し此の敗戦をお許し下されん事を乞ふ。
因に本日出漕選手左の如し (H 記)

C 的場末吉 1 川添助二郎 5 西依孝太郎 4 葦龍觀
3 村岸久太郎 2 西山利員 B 原田政藏

堺濱出漕記

西山記

永年の望を果すべく、去年の怨を晴さんと、伊
吹風の寒風も燃ゆる血潮に溫めつゝ、復讐の一念

は或は艇上或はバック臺上の血痕となりてシートに着きたり。一報飛び來りて大會の二十八日なるを知れり。神戸新聞社主催第十一回關西聯合端艇大會に出漕する事となれり。

二月二十七日 午前七時四十分、我等七勇士は應援團諸君の熱誠なる萬歳の聲に送られて勝たでは再び歸らじと遠征の途に上りぬ。さても思へば悲壯なる別なりき。「風蕭々として易水寒し壯士一度去つて復た還らず」と歌ひし荆軻の胸中も我等七名の思ひも如何ばかりの相違あらんや。瀬田の流を望んで五月八日を思ひ出し、敗れし無念やる方なく石場の濱を眺めては去年の夏の思ひに轉た感慨の情に堪へざりき。思はず手を握りて明日のレースを考へ始めぬ。京都、大阪も何時しか過ぎ三宮驛に汽車は着きたり。此處にて下車し有難き先輩諸君の出迎へを受け、直に神戸市外の海濱に至り、高商の艇を借り受けぬ。神戸高商に居られる諸先輩並びに本校應援團諸君に勵まされてコースの練習を始めぬ。艇は違ひ、海波に慣れず、不自由甚だしかりしが、責任の大なるを思ひては苦

心を重ねて艇に慣れんと努めたり。二度コースを引き、艇を上げて須磨寺附近の某旅館に至りぬ。夕食後コースを見に行く。敦盛塚、一の谷等一として源平戦の跡を忍ばしめざるもの無し。歸りて眠に就く。明くれば二十八日。決勝の日は來れり。お、今日を待つ心如何に永かりしか。今日を思ひて泣きし日の如何に久しかりしか。戦はん哉時は來れり。朝來空曇りて絶好の日となり。戦熟して我等の戦ふべき五回は來れり。戦はん哉いざ。

白 御影師範 第二着 二コース
赤 彦根中子 第二着 三コース

敵は強大にして艇になれ、我は小さく且艇に未なれず、而もコースは八百米なり。敵急調を以てゆき、我は急調を用ふる能はず。然れども我は赤鬼健兒なり艇は身體にて漕ぎ得るものに非ずして意氣にて漕ぐものなり。御影師範何程の事やあらんと覺悟を定めてランチに曳かれスタートに着きぬ。今か今かと待つ内に銃聲一發。二艇は白沫を蹴つて滑り出でぬ。敵急調を以て進み、我緩調を以て之を追ふ。一進一退ミッドルに至れり。され

ど敵は益々急調を以て一漕我より抜き出づ。嗚呼最早ラストに至る。我れ如何にもして之を回復せすんば歸り得べき、急にビッチを上げて敵に迫れり。二艇身余は忽ちにして回復しぬ。されど如何にせん八百のコースは最早盡きたり。一發の號砲は高く白旗を打ち振りぬ。噫止みぬ。勝つも負くも時の運とは云ひながら、一度も敵を倒さで空しく須磨の浦の泡と消え果てぬ。噫無念なりし堺ヶ濱遠征、此の恨、此の仇如何にして報いん、恨を吞みて歸りぬ。戦死の思如何なりしか。終りに臨み先輩諸兄並びに應援團諸君の熱誠なる御後援を謝す。

出漕選手氏名

舵手 的場 末吉	整調 川添 助二郎
五番 杉本 義三郎	四番 箕 龍 親
三番 村岸 久太郎	二番 西山 利 貞
一番 原田 政 藏	

石場濱出演の記

S M 生

七月廿七日 午後五時無事琵琶湖周遊を終へ大

津に着し艇を紺屋ヶ關に繋ぎ佃亭に入る。廿八日、廿九日と漕艇俱樂部の編成されし練習艇貸付時間割に従つて練習せり。されど遠漕中に起りし三番の脚氣、四番の腹痛未だ充分に快復せず、心痛し居りし折柄、舳手の原田君遠漕中に起りし脚氣三十日に至り俄に重態となり、附近の醫師に診斷を乞ひし所、思ひの外なる重患にて、出漕禁止を命ぜられたり。剛健無双の原田君も病には勝てず遂に恨をのみて家にと歸られたり。日頃重鎮と頼みし原田君を失ひし我等、非常に悲しめどせんなき事なり。されど我等にも彦中魂有り、力の限り戦はんとは誰しも期せし所なり。其の晩直ちに彦根に練習され居たる赤鬼俱樂部中なる青山君を迎へたり。かくて二日三日と一同打揃ひて最後の練習を必死にせり。

三日午後大津交道館に出漕選手の茶話會あり。一同出席す。田島博士、大國法學士等の注意訓話等ありて後、委員より抽籤にかゝる各校の舵手代表籤をひく。満場の壯漢我敵は何處に有りやと睥睨す。其の結果。

第七回 和歌山中學 大堰 一コース
高知商業 宇治 三コース
彦根中學 木津

かくて第一回戦は一は南方の覇者、而して一は四國の荒波に育ち本年の初陣にして優勝候補として既に定評有りき。然れども敵小なりとも侮らず敵大なりとも恐れず、我勇を鼓して戦かはん哉。其夜一同策戦に餘念なし。

明くれば四日愈々待ちに待ちし奮闘の日は來りぬ。東天漸く白む頃、既に起き齋戒沐浴前の縁故深き天孫神社に詣づ。朝食を終れば正に午前七時開會の期は迫りぬ。床の上に飾られしは金色燦然たる優勝旗！噫此の優勝旗を見るにつけ、思ひいでらるるは我等が責任の重きことなり。或者は云ふ「此の優勝旗は一寸會場へ持つて行くのみだ。すぐ取つて來る。」と既に敵をのめる。概有り。再び神前に類づき、最後の祈を捧げ、多數の先輩に護られ、優勝旗を持てる舵手を先頭に會場にと佃亭を後にす。路行く人に皆此の優勝旗と我等とを見、一種の敬意を表したり。昨年の餘榮を蒙りし我等、いと頑張りて横行せり。午前八時會場に

優勝旗返還式有りて、我が舵手之を返還す。心中には再び貴ふを期して。

時は愈々來り、短艇は湖面に浮び、滿鑑師の觀覽船、小舟、さては審判船、應援船、モーターボート、水上偵邏船等舳舳相銜みて走る。應援團は幾十筋の赤白の應援旗を舉げて聲をからし參觀人は堤に黒山を築き一漕毎に緊張し動搖するを覺ゆ一回二回と過ぎ時刻益々移り愈我等の起つ時は來れり、急激の如き拍手裡に鮮なサリエートを終へ曳船に着く、二艇に分乘されし先輩校友諸君より「忘れるな！今だぞ！再び取れ！」と叫ばれた聲を後にして沈黙する三艇は相並んで行く、會長席も漸く薄く見ゆる頃蒸汽船の汽笛一聲各艇各スタートに着けり。再び名譽の旗を握らざれば生きて歸らじと燃ゆる血潮を押沈めオールを堅く握りしめ審判船の用意を今や晚しと待ちかまへし時しも「ズドン」と一發號砲は響きぬ。スハミスタートの綱を切つて落し漕ぐは今を鍛へし腕を現す時は今ぞと急調を以て進む。俄然スタートより猛烈なる肉薄戦にして五百六百に至り我二艇先づる

なん事は！噫涙にむせんで言はんと欲して語るを能はず千々の思ふ。

終りに臨み本會のため御盡力下されし三橋君及び先輩諸兄に厚く謝意を表す次第であります。因に本校出漕者左の如し。

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| B | 青山 嶺次 | 2 | 高森 治 |
| 3 | 村岸 久太郎 | 4 | 莖 龍 觀 |
| 5 | 西山 利員 | L | 川添 助治郎 |
| C | 的場 末吉 | | |

石場濱にて

赤鬼俱樂部

浪にもまれ風に曝され辛苦を嘗めし練習も周湖の擧も最早何の功を奏せずして行きぬ。噫此の恨！此の恥！再び優勝旗は金龜城下に燦かすになりぬ。勝敗は時の運とは言ひ乍ら無念の極にこそ只々此の後後輩諸子の奮闘を待つのみ。

赤鬼俱樂部に告ぐ。赤鬼俱樂部諸輩よ長き暑きあの夏の日に學期試験もいとはず我部に御盡力下されし有難さ而かも此の敗慘を以て再び諸兄に見

東天遠勢一峰出づる伊吹の嶺狂瀾怒濤、嶄巖絕壁に激し轟々百雷の如き琵琶の大湖、さても四顧陰々、炎威熾々暑熱灼くが如き炎天下に、流汗淋漓として、天焼け、地焦げ金鍊け、水涸るる時日々怒濤と戦ひ、或は長濱に或は多景島にと鍛へに鍛へし、鐵腕赤銅に流石鬼の如き精神體力にて八月一日未明我等は意氣衝天の概を以て石場濱にと志しせり。

幾多の老松大蛇の如く岸に打寄する怒濤は巖を噛み、餘沫玉を碎く。此處を幾年の臥薪嘗膽の辛酸をなめ、昨年遂に本校選手は他校選手の強者を打破して嶄然頭角を見し天地に轟く凱歌を奏せし地なり。

此の日初めて大艇に乗り込み、練習を爲す。

此處彼處に他校選手の漕ぎ行くや、モータボート中蒸氣の進み行くを見れば元氣百倍、初陣の若武者の意氣正に天を衝くの概有り。午後我等の乗艇に故障有りし爲、老松の木の下でストブオツチと雙眼鏡とをにらみ合ひ、タイムやビツチを計るやらして夕方宿に歸れり。夜八時頃宿前なる天孫神社境内でバック臺の練習をなせり。九時床に入りたり。團々たる明月は蚊帳を透して湖中に現れ出で月陰湖面に寫りて風景甚だ好し。二階の蚊帳に入りてより吾等は互に種々なる物語を語り合ふ中に何時しか夢路を辿れり。

明れば二日本日は自艇を以て湖中を右方左方にと我等の雄姿を見せばやと意氣揚々と漕ぎまはれる。此の日太陽少しも痺む間なく、強く輝き涼風

手及び附添一同の懇親會有り。我等は第一選手共に其の席に列せり。

最初田島博士の訓話次に某博士は此の端艇競争は美麗であり、經濟的であり、且つ男子にとりて最ふさいしい即ち男子的運動なる事を話せり。最後に大國法學士は英國に於て端艇使用の方法に就き最上の努力を以て丁寧にするべき事を話せり。後團欒諧謔の内抽籤は行はれた。結果左の如し。

第十四回 コスモス會 赤鬼俱樂部

彼は湖南に雄飛すと雖も我は唯意氣を以て當るべしとかたく決心し宿に歸りて後此の日大いに休養して我等一同明日の作戦計畫を爲して床に入れり。

時は來れり。八月四日滿天隈なく晴れて靜風徐ろに吹き、間々小波を打ち寄す。今日こそは我等が幾句の困厄萬狀或は逆浪暴風雨を冒し、或は暴横の風波に覆はれ、或は奸計の巖礁にかくれ、風狂ひ、浪怒る海に幾多の辛酸を嘗め盡せし手術是の一期に現さばやと、先づ齋戒沐浴し、直に宿前なる神社に參詣し、昨年獲得せられし優勝旗、其

無くて湖面には小波打寄するのみ。午後になりて其の酷熱は大いに甚しかりしが、突如一天にはかにかき雲りて風一しきり吹き落ちたるに柳蓮葉などの葉裏白く見せたるも涼し。やがて大きな雨の間遠に落ちたるが、後には頻りに降りて物音も聞えず。土の匂ひ來るもいと心地よし、軒場は玉の簾かけたらんやうに、玉水の絶間なく落ちたるに、人々暫し物言はで打ち守り居たるもおかし。忽焉として雷光閃々として時に塔尖と射、猶も大雨沛然として今迄騒しかりし滋賀の都も暮におほはれし如く、沛雨暗澹たり。然れども湖上を見れば降雨の中に三々五々四分五裂と漕ぎ行くも亦壯なりと言ふべし。暫くして比叡の一角雲を脱ぎ捨てたれども空濛々として雨烟の如し。午後四時歸宿後籠城。夜九時再び帳中の人となる。

八月三日 昨夜の猛雨も名残り無く晴れ、朝日は斯の光線の尖端に天の光榮を載せて、紫の雲の間より現れぬ。本日は最終の練習日、明日愈々開かるゝ大會を前にしての練習血は湧き肉は躍るの感あり。午後一時より交道館の二階に於て出場選返還式に列れり。

戦はん哉時機至る。愈々「第七回」是ぞ我が第一選手の雄雄を決する時である。敵は四國の雄高知商業及び南海の覇を握れる和歌山中學なり。我等及び先輩校友の一部は自艇に乗り込み、七百のポールに今や遅しと長き不安に打たれながら一齊にスタートのみ見張つてゐる。突如審判船よりピストルの一沫の煙が上つた。二つの槳が水をはね飛ばした。一漕一漕毎に次第にウイニングポストに近づく。スタートは我に不利なりしもミツドルに於て能く其の巧を奏し、力漕に力漕を重ね七百になるや我等は突如怒號をしながら八百、九百に入り、我が方約半艇身先だつ。後三艇並行となり其まゝ決勝線に入らんとす。突如號砲上がれり、我等再び立つ事能はず。嗚呼止みなん止みたり。嗚呼何たる事ぞ？……

第十四回來りぬ。

赤鬼 (赤) 三三三 瀛洲 一着 五分十秒
コスモス (白) ニニニ 方丈 二着 不詳

是れ！此れ！此の戦こそ我等が最後の勇を振ふべき時である。此の戦に敗れては今迄の艱難辛苦も水の泡と堅く決心し赤鉢巻の勇敢なる體にて會場に向つて見事サリユを爲しコスモス共に汽船に繋れ、スタートに向ひぬ。今は唯死を以て當るべしと我等はスタートにつきぬ。號砲一發、舵手は此處五本を叫べども彼、我の先に有り。三百のポールに至りて舵手は亦もや此處五本を叫べば彼我並行となりてミッドルに入れり。此の頃より波濤次第に荒れ、怒濤怒りて舷を打ち、漕手は大いに難色と見せしが勇敢なる我が漕手の「そらやらう」と遽に急調を以て漕ぎ出した。何ぞたまるべき次第々々に彼我遠ざかり行く。九百のポールに至る頃はひ、最早や彼力も意氣も無く我がラーストヘビに依り其の差益々増大し約七艇身の差を以て決勝線を突發せり。勝！喜！我等の喜悅如何ばかりぞ。こは應援諸君の熱誠なる聲援と我等の規律的動作との賜である。直に上陸して幾多の來賓と幾萬の觀衆注視の中に荒木會長より花輪其の他の賞を受け宿に歸れり。後各々歸郷の途につく。

の内、一艇分的場組は太湖汽船の棧橋にある本校のボートに乗つて瀬田川に向ひ他の二艇分細田難波組は三高の艇を借りるために三高艇庫に行つて三高の舊艇に乗つて瀬田川に向つた。丁度定刻とて他校の選手も自艇に分乗して瀬田川をさして漕いで行く。

午後一時に全部集合。岸本縣視學から明日の式について種々の注意を聞いて豫行演習をした。師範六艇、本校三艇、膳中三艇、八商三艇、長農二艇で、都合十七艇總員百十九人で前の順に各艇五艇身の差を置いて一列に整列した。明日皇后陛下が洗堰を御出發になるてふ第一の號砲は發せられ約一分間後に發せられた第二の號砲で各艇一齊に漕ぎ出した。皇后陛下の自動車と假定した縣廳の自動車に各艇ごとに禮をして行き過ぎる。これで演習は終りである。艇を石山寺下につないで宿に歸る。

晩は特に今度に限つて許されて活動へ行つた。十一時頃皆歸つて床に就く。晝の疲で眠つて朝七時前にやうやく目を覺した。食事の後一同は九時

終りに臨み御多忙中にも拘らず毎日熱心に御指導下されし池田先生及三橋堀口兩兄に厚く御禮申上げます。

因に赤鬼俱樂部のメンバー左の如し。(RA記)

舵手 難波 幸夫	整調 西 依 幸太郎
五番 下 郷 英二	四番 青 山 嶺次
三番 桑 原 勘平	二番 藤 堂 兵庫
艇輔 中 村 長藏	

皇后陛下奉迎端艇分列式 参加の記

西 山 記

十一月某日土曜池田部長引卒の下に選手二十一名は午前七時汽車にて志賀の都大津に向つて出發した。十時前大津に着いて四年以下の選手は直ぐ旅館佃亭に向ひ五年級は部長と縣廳へ行つて今日の豫行演習及び明日の分列式に關して縣廳當局の方針を聞いて宿に着いた、佃亭で中食の辨當を食つてすぐ石山の下、瀬田川に向つた。選手三艇分

頃復た瀬田川に向つた十時までに集る様に命せられに選手は、石山寺の下に集つて命を待つ。時を過つて陛下を奉迎する人々が集り初めた。生徒老人、軍人、其他種々の人々が石山寺の門前まで片側に整列してゐる。砂塵を卷いて來る自動車、次から次へと走つて來る。縣廳の人の乗るもの宮内官の乗るもの又は軍人、警官或は新聞記者等數ふるに違ない程やつて來る。

今か今かと待つ。今度はと思つて見つめると又新聞記者が鐵面皮な顔つきをして活動寫眞機を持つて出て來る。その内に何所からとなく靜かになつたと思ふと朱塗の自動車が三臺靜かに進んで來た。彼方此方に氣を付けの號令は傳へられて皆は一度に容儀を正した。

三臺の自動車は音靜かに石山寺門前に着いた。第一、第三の自動車から武官従者等が現れた。第二の自動車の運轉手は下りて戸の横に立つた。戸は開かれて待從らしい人につゞいて白毛の着いた帽子淡水色の洋服及び毛皮の首巻を召された陛下は下車あらせられた。

選手席の横に高齢者席がある。陛下は下車あらせらるゝや直ぐ高齢者席へ會釋遊ばされ奉迎者一同を引廻されて從者と共に石山寺にお入りになつた。

我等選手は丁度門の横近く席を占めて、陛下のお傍近くにて拜し奉るを得、その御仁徳の深きに感じ入つた。すぐ解散して各艇に集り、發艇の用意をして晝食をする。縣廳の辨當は何時でも飯が少くて副食物が多い。僕等の選手には不適當な辨當である。お負けに飯がこわいので誰か「カジ飯」なんてしやれてゐた。

各艇ごとに赤白の順でユニフォーム帽子を着て合圖を待つた。二時過ぎに陛下は石山を御出發になつて、洗堰を御見學に出發せられた。選手は配地に付いた煙火の上るのを今か今かと待つてゐるが、中々上らない。最早十一月に入つて瀬田川の面を吹き下る風は可成りに寒い。ユニフォーム一枚の我々は少々寒さを感じた。併し時は來た。煙火は上つた。一發又一發各艇は一度に漕ぎ出した。新に出來た堤上の路を三臺の自動車が行つて

來た。朱塗の自動車が來た時、各艇ごとに禮をした。十七艇が一行に並んで、赤白のユニフォームは互に引き立てた。陛下は御満足であらせられたといふ事である。

式終つて石山の小學校で慰勞會が開かれ、壽し饅頭等をもらつて艇で歸つた。二艇を三高の艇庫へかへし、一艇を太湖汽船の波止場に着けて宿に行き夕食をすまして七時汽車で歸彦した。當日出漕の光榮を得たる選手左の如し。

灘波、川添、西山、篁、村岸、山本、青山、細田、西依、松尾、藤井、草野、蓮井、中村、的場、藤堂、本多、高森、伊吹、池田、梅本

琵琶湖縱斷之記

高森 治記

東風習々微薰を送り、黃鳥啾々郊外に囀づるの時、我が水上部選手は、去歲晴れの石場濱に於て舉行されし京都帝國大學國際漕艇俱樂部主催の全國中等學校優勝端艇競漕大會に於て榮ある月桂冠

を占むる事を得たり。此の好歴史如何で汚すべき。本年も必ず最後の月桂冠を得て校友諸君に見えんと、未だ伊吹の山嶺には殘雪を戴き、寒風凛々として肌を刺す四月の頃よりバック臺を開始し亦湖上に艇を浮べて日々水鳥と居を同じくし、鍛へに鍛へし腕持ちて、新學期早々に瀬田川に遠征して敗れ又神戸に遠征して再び敗れ、校友諸君の期待に背き、來る可き石場濱に於て舉行せらるゝ優勝大會に於ては如何にしても汚名を雪ぎ、亦去歲の好歴史を持續して、最後の月桂冠を握つて校友諸君に見えんと、堅き覺悟を定めて瀬田川及び神戸に於ての敗戦の後、艇を湖上に浮べて再び猛練習を開始しぬ。

試験それ何者ぞと許りに一日も缺かす事なく、雨の日も風の日も或はバック臺に或は湖上に艇を浮べて只赤銅色となりし腕にオール持ちて練習に日を重ね、第一學期試験も終りて一同は家郷に閑散の身を養へど、我等は一校の名を雙肩に擔ひて琵琶湖上に龍攘虎搏の活躍をなさんとす。而して光陰實に水の流るゝ如く、最早榮ある我等の奮

闘すべき大會は目前に迫りたり。我等一同は猛練習に猛練習を重ねし七月廿七日より三日間の日數を以て琵琶湖一周し征途に上らむとして有明月薄く中天に懸る午前四時過、波止場に於て用意萬端を整へ、愛艇比叡號を湖の鏡面に横たへぬ。五時を告ぐる城山の鐘の響と校友諸君の萬歲聲裡になつかしき彦根の地を出發しぬ。湖面鏡の如く艇足なめらかに送り、オールは輕く水を蹴る。其の日は池田部長同乗せられずして、先輩三橋君同乗せられ、一同は親しくコーチを受けつゝ、彦根の地を去る。此の日降らず照らすの絶好の好日和なり。間もなく多景島を右手にして、艇の方向を今津へと向けぬ、間もなく竹生島を左手にして、今津の町やバック等視界に入る頃と成りし時、俄然雲起りて天を蔽ひ、怪しき風は浪をあげ、今にも一大變事來らむとす。我等は必死となりて力漕に力漕を重ねしも、遂に雨は激しく降り來れり。一同は詮方なく雨の降り止むを待つ。

暫時にして雨は晴れ、今津も一層近く視界に入る來る様になり、我等は汗と降雨の爲に濡れたる

ユニホームをぬぎ捨てて、勇氣を鼓舞して五十分、十五分のロングコースを引き、最後に廿分のロングコースにより遂に今日の目的地今津に着したり。部長池田先生着せられあり、我等を迎へる。間もなく福田屋旅館に案内せられて、一同は遠漕の興味と辛苦を語る。夜は先輩大橋君訪問せらる。後我等は今津を散歩して旅館に歸り、午後九時就寝す。

第二日 明くれば昨日と打變り絶好のボート日和なり。我等は朝食を終へて昨日より元氣百倍して宿屋の人々並びに部長先輩に送られて再び愛艇上の人となり、今日の目的地へと向ひぬ。先づ五分間のロングコースを引きて腕を慣らせば、昨日に倍する暑氣は太陽の直射に益々加り、一同流汗淋漓、ユニホームは最早ビツシヨリと濡る。益々勇氣を鼓舞して艇を走らせば、大溝を経て白髮神社に至る。此處にて上陸、神社に参拜して武運の長久を祈り、後晝食して小憩をなし、再び愛艇の人となりて目的地小松に向ふ。間もなく艇は近江舞子附近に至る。見れば小松一帯の長汀には鱒網

廣く横たはり、數十人の漁人達はそれぐ自己の業務に忙しげに、汀を此方彼方に走り行き、さながら平和なる漁村を思はしむ。遂に目的地小松に至る。部長池田先生着せられて我等一同を迎へらる。直ぐ旅館に案内せられて一同は遠漕第二日も無事に経過せしと喜び語りしも、俄然堅忍不拔深謀の富む四番の重鎮病魔の冒す所となり、醫師診断の結果漕ぐ能はず。一同は遠漕第二日の辛苦と四番の病氣を心配しつゝ午後九時寝に就く。

第三日 いよいよ遠漕の最終日なり。今日は四番池田先生と共に大津に先着せられ、三橋君四番に代漕せらる。一同は二日間の疲勞何かはと勇を鼓して出艇す。途中近江八景を以て世に知らるゝ堅田に上陸して晝食を終へ小憩をなせしに、此の時風俄に起り、只小波のみ立ちし湖上は激浪と變ず。然れども勇敢なる我等七名何ぞ恐るべき。意氣軒昂再び愛艇上の人となり、オールにて波頭を蹴り掛聲勇ましく邁進す。然れども浪益々怒りて勇敢なる七士とは言へ到底抗する能はず、仍て近江八景の一なる唐崎の老松附近に上陸して浪の

静まるを待つ。暫時にして風止み浪又静まる時すでに午後四時過なり。而して大津は模糊の中にあなり。七士は遠漕最後のロングコース二本漕並びに猛烈なるラストヘビーの練習をなし、最後に猛烈なるヘビーを出して遂に滋賀の都に入りにけり。時に午後六時頃なりき。無事艇を繋ぎて後定宿佃亭に入るこゝに於て三日間にして周湖の舉を終ふ果して周湖の舉の益する所ありしや否や?

(一九二二年八月)

徒歩部

滋賀縣教育會主催運動會 參加之記

橘 明 徳記

大正十一年度我が徒歩部最初の遠征は七月二日本縣教育會に開かれし大會にして又最後の遠征なりしならん。大會以前我が部選手は新學期の始めよりユニホームを身に着け、高田部長の指導の

下に汗を流し、夕陽西山に傾むく迄、寒暑を犯し毎日猛練習を續けたり。

七月一日晴の舞臺に活躍する選手一同は、跳る胸を抑へながら熱誠なる校友會應援團諸君に送られ、三時五十七分彦根發列車に乗るべく彦根驛に參集せり。四時には早や車中の人となり、色々話を交へて居る内に汽車は大津驛に着せり。意氣揚々としてステーションを出で、豫て定め置きし天孫神社前たる佃亭に一先づ落ち着きぬ。

宿屋の好意を受けて、暫時は四方山の話交へ天孫神社に参拜して明日の必勝を祈り、競技場たる大津聯兵場を檢査に行き、會場の廣大なるに驚きぬ。七時半池田先生、病氣中なる高田部長の代理として來て下され一同先生を迎へ夕食をそこゝに終へて色々策戰をなし十時過ぐる頃就寝す。

明くれば七月二日、此の日や昨日來の降雨未だ止まず、一同心配せしが、幸なるかな、雨次第に收まり、巍然として聳ゆる四方の山も頭を出し、雲間よりは日影さへ現れぬ。一同始めて愁眉を開く八時過ぎ我等は池田先生に引卒せられ定刻に遅れ

じと宿を後にして會場に急ぎぬ。早や應援團よりは上野、杉本、藤田諸兄來て下され、又先輩諸兄も來て居られ、我等を激勵せられしかば、いかでか勝たて置くべきと、一層勇氣を鼓舞して開場に入れり。天は最早絶好の競技日和となり、夏を囁く若葉の色は廣き會場をめぐりて鮮かなり。遺憾なく準備終へて、愈々九時開會の喇叭は傳はれり。もう多くの選手はドヤ／＼とトラックの中で混雑し、周圍には觀衆潮の如く寄せ初め、開會の式は了へて囂々たる樂聲は滿場に響きぬ。

一回二回……進むに従つて追々我等が戦ふべき時は近づき、毎次の銃聲に胸は緊張の度を増しぬ。回数は矢の如く進行して時は來たれり。戦はんかな時機到る。中學部第一回百米、竹腰スタートにて他選手に遅れしが、コンバース長き彼はラストに於て七八人追抜き第三着を占む。(一)此に於て我れは先幸よしとまづ喜びぬ。第二回二百米スタートより彦中の選手青木、木村、安居、竹腰の順にて四人續いて決勝線に入りぬ。此の時滿場の人をして赤やバンッ彦中と呼ばしめたり。彼等選

手の得意や如何(天)四百米青木初め百米位までは五六十米離れて後部につき、一同心配せしが自信ありしと見ゆ平氣なり。案の如く最後の百米は得意のラストヘビーにてすん／＼抜き第三着となれり。(一)八百米山本スタートよりトップにて意氣揚々として一同を抜く事三四十米にて一着(三)一哩は宮内、吉川と僕とにて最初一回水中が一位僕二位、宮内三位と並びて三回續き三回より宮内得意の奥の手にて一位を占め宮内、吉川、水中僕と云ふ順にて決勝線に入りぬ。(五)八百リレーは木村スタートにて第一位を占め、コーナーにて滑り轉りしが一層元氣を盛返して第二位となり、其の順りて四人目即ち最後の小嶋となるや随分頑張り段々第一位たる膳中に接近し、が、残念なるかな僅か一尺餘の差にて敗れたり。(二)木村、青木、安居、小嶋)

最後のマラソンは青年團と一緒に、本日大會に於ける最も人氣ある見物にて選手百余人其の内には松居、成宮悠々として加はり。瀬田橋を出發し膳所を通り大津に入りて開場に歸るなり。途中

角力部

角力大會之記

大正十一年十月十六日 その日こそ我が金龜城下の六百の健兒が渾身の血を躍らせ唸る鐵腕を撫して待ちに待つた日である。天晴れ瀨氣爽かにして赫々たる太陽は此の活氣に満ち満ちた我が角力大會を飾つた。午前九時半といふに諸準備漸く整つて直ちに開催せられた。

◇一年級一本勝負

- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1 中島 | 2 森野 | 3 國領 | 4 橋本 |
| 5 山本 | 6 知田 | 7 渡邊 | 8 北川 |
| 9 田中 | 10 佐藤 | 11 長谷川 | 12 上野 |
| 13 松宮 | 14 國領 | 15 江龍 | 16 古川 |

山本、東林の取組は興味を持つて迎へられた。勝負のついた時群衆の視線は兩先生の笑顔に集つた。これは今日の面白い取組であつた。次いで三人拔(四回)五人拔(一回)行はれたが蓋し未だ練習

常に松居第二位にあり、成宮中頃にて疾走しぬ。決勝點に於て一着誰の手に歸するかと見張り居れば、百米を隔て二人の選手現れ來りぬ。惜しいかな、松居は第二位なり。あゝ僅かに百米の差を以て孺子をして名をなましむ。成宮は十一着なりき。記中括弧内の文字は得點を示す。

彦中十八點 大商七點 膳中三點 水中一點
師範一點 八商零點

此の如き好成績を以て名譽の月桂冠を得ぬ。時七時過ぎ宿屋の好意を謝し、十一時汽車にて歸途に就きぬ。これも應援團諸君の熱誠なる御後援に依る事なりと深く／＼謝する所なり。當日の出場選手左の如し。

長距離 松居勝吾 成宮義雄
中距離 山本壽彦 宮田光三郎 橋明徳 吉川秀雄
短距離 青木善雄 木村平次郎 竹腰昇 安居喜三郎